

大谷学會

◇研究発表会

十月二十二日(木) 午後〇時五十分
 於 響流館メディアホール
 慧思の末法観 本学講師 采翠 晃
 大岡昇平と太宰治―それぞれの「ハム
 レット」、それぞれのシエイクスピ
 アー 本学准教授 荻津かおり
 クメール・ルージュ特別法廷と移行期
 の正義 本学准教授 阿部利洋
 保育者として卒業した人たちの動向お
 よび実態 本学教授 徳岡博巳
 *阿部利洋氏の発表内容は今号に要旨
 として掲載しています。その他の発
 表内容は次号以後に論文として掲載
 する予定です。

真宗総合研究所

◇真宗総合研究所委員会

七月十四日(火) 午後〇時三十分

於 尋源館J一〇一教室
 ・二〇〇九年度「指定研究」研究補助
 員の辞退に伴う、補充採択について
 九月二十八日(月) 午後〇時十分

於 博綜館第三会議室
 ・二〇一〇年度「一般研究」の募集に
 ついて
 十二月九日(水) 午後〇時十分

於 博綜館第四会議室
 ・二〇一〇年度「一般研究」の選考に
 ついて

真宗学會

◇第二回真宗学會例会

七月一日(水) 午後二時三十分
 於 尋源館J一〇三教室
 卒業論文梗概発表会

◇第三回真宗学會例会

十月七日(水) 午後二時三十分
 於 尋源講堂
 親鸞における教誡の意味

―第一の教誡を中心として―

博士後期課程第一学年 斉藤 寛
 如來の大悲心

―「信巻」信樂釈を中心として―
 博士後期課程第二学年 山高秀介

◇第四回真宗学會例会

十月二十一日(水) 午後二時三十分
 於 尋源講堂
 親鸞の主体形成の道程

博士後期課程第一学年 難波教行
 真宗における宗教的自覚

―曾我量深の三心觀を通して―
 博士後期課程第二学年 楠 寛大

◇真宗学會大会

十月二十七日(火) 午後三時
 於 響流館メディアホール
 関東の親鸞―三部經千部誦誦の中止を
 通して― 本学教授 一楽 真

親鸞聖人稲田草庵とその環境
 筑波大学名誉教授 今井雅晴

◇第五回真宗学會例会

十月二十八日(水) 午後二時三十分
 於 尋源講堂
 清沢満之出現の歴史的意義を考える

本学教授 水島見一

◇第六回真宗学会例会

十一月四日(水) 午後二時三十分

於 尋源講堂

法然の菩提心観

博士後期課程第一学年 相馬 晃

法然における学仏道の関心事と方向性

—「行状絵図」を中心にして—

博士後期課程第一学年 安居宏淳

◇修士論文中間発表会

十一月十八日(水) 午後二時三十分

於 二号館二〇二教室

獲信の存在—「真仏弟子」を通して—

青柳英司

願生浄土—一切外道凡夫人における自

利利他—

上島秀堂

救われたる阿闍世の心から見えるもの

—「涅槃経」「梵行品」を中心とし

て—

野々目末利花

◇第七回真宗学会例会

十二月二日(水) 午後二時三十分

於 尋源講堂

日本における末法克服の諸形態と「往

生要集」の思想的意義

博士後期課程第三学年 花園一実

『教行信証』「信卷」における菩提心釈

の意義

博士後期課程第三学年 藤原 智

◇卒業論文中間発表会

十二月十日(木) 午後五時五十分

於 二号館二一〇一教室

不可思議

悪人正機について

古谷清文

親鸞一人カタメナリケリ—本願に生き

る私—

本多 龍

「真仏弟子」の考察

宿業と本願—真宗の人間観—宮谷啓法

他力の信心

蓮井智道

◇第八回真宗学会例会

十二月十六日(水) 午後二時三十分

於 尋源講堂

前念命終後念即生

—「信卷」の展開を中心にして—

博士後期課程第三学年 後藤智道

願心莊嚴の意義試考—『教行信証』欲

生釈所引・願心莊嚴の文より—

博士後期課程第一学年 亀崎真量

仏 教 学 会

◇修士論文中間発表会

十月十五日(木) 午後四時十分

於 響流館マルチメディア演習室

◇研究発表例会

十一月二十六日(木) 午後四時十分

於 響流館マルチメディア演習室

『宝行王正論』における大乘仏説論に

ついての一考察—『大乘莊嚴経論』

の大乘仏説論との比較を交えて—

博士後期課程第三学年 林 哲照

『入中論』における菩薩の第六地につ

いて

博士後期課程第三学年 太田露子

依他起性の実在性を巡る中観学派と瑜

伽行学派の論争—パーヴィヴェーカ

による瑜伽行学説批判の一考察—

本学任期制助教 宮本浩尊

◇公開講演会

十二月一日(火) 午後四時十分

於 響流館メディアホール

いま、仏教にできること

—グループホームの視点から—

兵庫大學教授 釈 徹宗

哲 学 会

◇秋季研究会

『哲学論集』第五十五号合評会
十二月八日午後四時十分

於 響流館マルチメディア演習室
浄土教と非公式的なスピリチュアリ
ティの一形態としての念仏

藤枝 真

『責任』と『謝罪』—子供強制隔離政
策に見る『責任』の意味 坂口 清

西洋哲学学会・倫理学会

◇秋季公開講演会

十一月十九日(木) 午後四時十分

於 尋源講堂

哲学的問いの発端—ハイデガーの場合
広島大学総合科学部教授 古東哲明

宗 教 学 会

◇第二十八回「大拙忌」記念公開講演会

七月九日(水) 午後四時十分

於 響流館メディアホール
私たちは生と死を取り戻せるのか?
—医療化社会における死生学—

鳥取大学医学部准教授 安藤泰至

教 育 学 会

◇秋季公開講演会

十二月八日(火) 午後二時三十分

於 二号館二三〇一教室

子どもの思いにこころをよせて
華頂短期大学准教授 西川由紀子

国史学会・日本仏教史学会

◇大谷大学日本史の会大会・総会

七月二十五日(土) 午後一時四十五分

・研究発表(午後二時)

於 響流館メディアホール

山口県史編纂の歴史と展望 山本 琢

小学校の学びと育ち—社会科・総合的
な学習の時間を通して—山下ひろ子
能面に見る「写し」—切型を中心に—
齋藤 望

近代日本仏教の対アジア越境

・総会(午後五時十分) 木場明志

於 響流館メディアホール
・懇親会(午後五時四十五分)

於 一号館学生談話室

ビッグバレー

◇大谷大学日本史の会九月例会

九月二十六日(土) 午後二時

於 響流館演習室四

仮名法語にみる白隠慧鶴の政道論

—『東照宮御遺訓』受容の側面—
吉田仁美

◇大谷大学日本史の会十一月例会

十一月二十八日(土) 午後二時

於 響流館演習室四

東本願寺門前の景観と書肆 杉本 理

文藝学会

◇公開講演会

七月八日(水) 午後一時

於 響流館メディアホール
韻書を「読む」

本学准教授 浦山あゆみ

人形浄瑠璃演出研究―絵が語る所作の世界― 同志社大学教授 山田和人

◇『文藝論叢』第七十三号発行

(九月三十日A5判七十六頁)

解脱房貞慶と『玄奘三蔵絵』―貞慶作

『中宗報恩講式』をめぐって―

野村卓美

『今昔物語集』の孝子説話について

―巻九の構成意図を中心に―

金 偉・呉 彦

語りかける「私」―太宗治「待つ」を
主題として― 山本晴一

支遁の逍遙論に関する考察 大角紘一

『列仙全伝』研究(十二)―画像資料

集②・4― 佐藤義寛

国文学会

◇大会

十月三日(土) 午後三時三十分

於 尋源講堂
解脱上人と明恵上人

別府大学短期大学部教授 野村卓美

中国文学会

◇卒業論文中間発表会

十月二十八日(水) 午後一時

於 講堂棟談話室一・二

『老子』に見る生死観 酒井琴絵

趙雲について―『三国志』から『三国演義』― 端ゆかり

『金瓶梅』に見る中国の女性

李白の月について 河田さゆり

寺谷こずえ

李賀の詩の世界―異界の女性をテーマ

にした詩― 岡本今日子

杜牧の詠物詩 田口貴大

蘇軾と蘇轍の次韻詩―蜀の風俗に関する詩を中心に―

木村有加里

老舎の人力車夫について―『老張的哲學』と『四世同堂』の比較―

松本沙知

◇学術公開講演会

十二月十八日(金) 午後四時十分

於 尋源講堂

中国古典詩に於ける(詩情)について

京都女子大学教授 愛甲弘志

西洋文学研究会

◇年次大会

七月十八日(土) 午後一時三十分

於 博綜館第二会議室

①総会

②研究発表

ワーズワースと自然

京都工芸繊維大学非常勤講師

源 真帆

ギユスタープ・フローベールとジヨル

ジュ・サンドの腕比べ―『ボールと

ヴィルジニー』を前にして―

青山学院大学非常勤講師 黒川美和

『孤独な散歩者の夢想』における「植

物学」が意味するもの

本学教授 並木 治

英 文 学 会

◇年次大会

十二月十日(木)午後四時十分

於 一号館二一〇教室

〈研究発表〉

Frederick Douglass と Herman Melville :

19世紀アメリカ小説にみる「自由」の表象
朴 珣英

〈卒業論文中間発表〉

①ロアルド・ダール 『チャーリーと

チョコレート工場』 川崎世里奈

②スコット・フィッツジェラルド 『グ

レート・ギャツビー』 高木健人

人 文 情 報 学 科

◇第一回講演会

十月二十七日(火)午後二時三十分

於 二号館二三〇一教室

旅も生活になるー「生き方」を自分で

創る時代にーライター 近藤雄生

◇第二回講演会

十一月二十四日(火)午後二時三十分

於 響流館メディアホール

「デザイン」に学ぶ

ーグッドデザインの世界ー

日本産業デザイン振興会理事 長

飯塚和憲

短 期 仏 教 科

◇第二学年卒業研究中間発表一夜研修会

九月十一日(金)ー十二日(土)

於 湖西キャンパスセミナーハウス

第二学年の一夜研修会を開催。十一月

二日の卒業研究の提出に向けて、中間

発表会と教員を交えての懇談会を行っ

た。

幼 児 教 育 保 育 科

◇第二十四回幼教フェスティバル

十二月二十日(日)午前十一時

於 講堂

今年度は「虹」僕ら色の夢を描こう」というテーマで、一・二年生全員で協力し合って行ないました。

午前の部は十一時ー十二時十五分まで、午後の部は一時三十分ー三時三十分まで。付属園の大谷幼稚園をはじめ、実習先の幼稚園・保育園の園児たちや一般の方など、たくさんの方に見に来ていただきました。

内容は、「竹取物語」「ジャックと豆の木」「白雪姫」等、学生の創意工夫によるオペレッタを中心に、多様な発表会となりました。

二年生が中心ですが、一年生も参加し共に作り上げることができ、学生たちの感性・構想力・表現力にあふれる息の合った発表会でした。